

地域で実践！ 「サル」の追い払い」

平成25年1月、亀山市城北コミュニティ主催による「サル」の追い払い」が実施されました。この地域には亀山C群とよばれる60頭程のサルが出没し、目撃される機会や農作物の被害も増えてきています。

そこで地域住民の参加を募り、集団での追い払いが計画されました。明石さんをはじめサルどこネットのメンバーでもある亀山サルの会の指導のもと、三重県の農業改良普及センターと亀山市も協力し、組織的な追い払いの体制がつけられました。

人間をよく知っているサル!? 亀山C群



亀山市内には10程のサルの群れが確認されており、各群れごとに行動範囲がだいたい決まっているそうです。そのなかでも亀山C群は、市街の民家の側を移動しながら生活する「シティーモンキー」です。亀山C群のサルは人間に近いところで生活しているため、人間慣れが進んでおり、今後は人的被害が出るのではないかと心配されています。

事前の「花火取扱講習会」

参加者を対象にロケット花火などの取扱方法についての講習会が行われました。

実施1週間前、追い払いたい方向や人員配置などの作戦を参加者同士で共有しました。今回の追い払いでは、元のすみかだった山へ返そうということになりました。



写真提供：亀山市

追い払いに向けて！「検討準備会」



「追い払い」実施当日

アンテナを用いて群れがいる場所を確認すると、他の場所で待機している仲間へ連絡します。群れが移動するルートを予測し、追い払いたい方向へと道筋を立てて、それぞれの場所に人が配置されています。

群れに近づくとロケット花火を打ち、サルに対して「あっちへ行け！」とおどします。途中、逃げるようにして走るサルも目撃されました。こうして全員で情報を共有し、協力し合いながら群れを動かす、少しずつ目的地まで追っていきます。



自分たちの地域は、 自分たちで守る！

今回の追い払いは群れのサルが散らばって逃げてしまったため、途中で諦めざるを得ない結果となりました。

群れが移動する場合、先頭から最後尾まで10メートル程に連なることもあるので、群れごとと追い払うことは簡単なことではありません。しかし城北コミュニティでは、今後も集団での追い払いを定期的に実施していく予定です。

追い払いを指導した足立さんは「人間はサルに対して、ここは来てはいけない場所だと知らせる意思表示をしなければなりません」と話します。

こうした取組みは地域の理解を得ながら団結し、継続していく必要があると感じました。サルにとって人間の生活域が心地よい場所にならないよう、追い払いを行い続けていかなければなりません。